

# 標準施工要領書

カチオンフィルター

ヤブ原産業株式会社  
〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷5-4-6  
TEL 048(297)4111 FAX 048(290)1199

## 1. 特 長

- ・材 質 カチオン性アクリル樹脂入りセメント系フィラー
- ・施工方法 吹付け、コテ塗り
- ・用 途 ①リシン下地（セメント系は下地強化が必要）の下地調整。  
②PC コンクリート、打放しコンクリート、モルタル、ALC 板、ブロック等  
目潰しと下地調整。  
③目違い、ひび割れ、段違い、ピンホール、ジャンカ等の下地調整。

## 2. 工 程

工 程	材 料 ・ 調 合	施工器具	使 用 量	塗回数	間隔時間
主材塗り	カチオンフィラー 主 材：20.0 kg 硬化液：8～10kg	リシガン器 エアレス 金ゴテ ローラー	1.0～1.9 kg/m <sup>2</sup>	1～2	23℃で 12 時間以上

※上記の数値は全て標準のものです。施工下地、温度等環境条件により多少のずれが生じることがあります。

※エアレスはセメント系材料を吹付け可能な機種を使用し、ホッパーにメッシュを被せ混練した材料を投入する。

## 3. 工 法

### 3-1 下地処理

- 1) 下地表面のレイタンス・ほこり・油脂等は、ケレン及び水洗いにて除去してください。
- 2) 脆弱な無機質下地の場合は、浸透プライマー又はガッチリ浸透プライマーで下地強化してください。
- 3) 補修の際は、下地が躯体に対して十分な接着力があるか確認してください。  
十分な接着力のない場合はケレンしてください。
- 4) 下地に撥水剤が塗布してある場合は、接着できないものもあります。あらかじめテストを行い、確認してください。

### 3-2 混練方法

- 1) 練りませ容器に、まず硬化液のおよそ 70%を入れ、主材パウダーを徐々に加えながらハンドミキサー等でペースト状に練り上げます。ここで残りの硬化液を加えて、施工に適した粘度に調整します。水は絶対に混入しないでください。
- 2) 一度に混ぜ合せる量は、可使時間（夏期 60 分、冬期 120 分）以内に使いきる量とします。混練後、時間経過とともにしまってきますので、可使時間以内であれば残りの硬化液を加えて調整してください。
- 3) コンクリート巣穴面、ALC 面、またはブロック面等への充填処理には、柔らかめに材料を混練します。
- 4) 段違い、ジャンカ、ひび割れ等の比較的大きな埋戻しには、堅めに材料を混練し施工してください。

### 3-3 主材塗り

施工は吹付けあるいは金ゴテで行い均一に塗布する。

※吹付けはリシンガン器を使用する。エアレスはセメント系材料を吹付け可能な機種を使用し、ホッパーにメッシュを被せ混練した材料を投入する。

乾燥 23℃で 12 時間以上

## 4. 注意事項

- 1) 可使用時間（夏期 60 分以内、冬期 120 分以内）を過ぎた材料を無理に練り戻して施工することは避けてください。硬化不良の原因となります。
- 2) 一回に多量に吹付けるとダレますので、一回に吹付ける量は 1.0kg～1.6kg /㎡前後としてください。（下地により異なる）
- 3) 強風時での施工及び施工後 12 時間以内に降雨のおそれがある場合は、施工を避けてください。また、3℃以下での施工も硬化が十分に果せませんので避けてください。
- 4) カチオンフィラーの上にセメントモルタルを施工する場合はガッチリ浸透プライマーWを塗布するかポリマーセメントモルタルとして施工してください。
- 5) 下地が多少湿っていても施工できますが、濡れている場合は拭き取ってから施工してください。
- 6) 主材パウダーは水硬性ですので、水や湿気には十分注意して保管ください。
- 7) 硬化液は直射日光下、0℃以下での保管は避けてください。
- 8) セットされた材料以外のものは混入しないでください。
- 9) 材料の取扱いについては、製品に記載された注意事項をよく読んでからご使用ください。その他詳細な内容が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

## 5. 梱包形態

	内 容 量 (kg)	形 態	標準施工面積 (m <sup>2</sup> )
30kg セット	パウダー : 20.0	紙袋	16～30 m <sup>2</sup> ( t =0.6mm～1.2mm)
	硬化液 : 10.0	角缶	